

私は現在日本建築史を専攻として建築を学んでいます。幼い頃より神社仏閣を見て回ることが好きで、元々は堂宮大工を目指していましたが、両親の強い希望もあり大学に進学しました。大学・大学院で文化財建造物について深く学んでいく上で強く感じたのは、文化財に指定されていない身近な建物であって非常に魅力的な建物は多くあること、そしてその価値に気付けていても、経済的理由や利便性から保存や活用を行える人は非常に少ないという事です。卒業論文では、偶然にも地元であり幼い頃から親しんでいた旧盛岡銀行本店本館の補修に関する工法について書く事が出来、身近な建物への愛着がより深まりました。しかし現在、身近な建物の価値を壊さずに使い続ける方法を提案するため、調査と設計を両立した事務所は数が限られます。私は将来、その魅力を単なる感覚に留めず、地域の財産を積極的に活用する仕事をしたいと強く考えております。